

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第7回 議事概要

日時	2024年1月23日(火) 13:30~17:15
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：泉、吉田、木村隼、木村大、清原、鈴木、安本、有賀 専門家：熊谷、長町、榎本、大橋、井上 地域事業者：郷田、湊、阿部、竹内、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 前田、田中、平山、村上、上野

1. 歴史的建造物の照明演出に関する進捗状況(報告)

下関市都市整備部及び事業受託者(松下美紀照明設計事務所)より資料に基づき説明の上、議論

(整備に向けて)

- プロポーザルで専門家を選定し、そこで練られたデザイン案になっている。当初の内容が変更にならず、しっかりと実現出来るようお願いしたい。
- 整備が完了してお披露目できる時には、海峡エリアの前向きな動きとして、カイキョーリボンプロジェクトにおいても発信していけると良い。

(運用及び今後に向けて)

- カラーライトアップをはじめとする運用スケジュールは、エリア全体で整えていく必要がある。将来を見越した拡張性や他のゾーンと連動する上での調整しろについては予め考えておけるようにしたい。
- 赤間神宮だけでなく、引接寺の山門が良いので、そこから李鴻章道、赤間神宮までをしっかりと計画に入れてほしい。平成26年の実証事業の成果も活用していく必要がある。

2. 海上交通の可能性について

下関市観光政策課及び吉田委員より資料に基づき説明の上、議論

(海上交通)

- 海上交通は、下関の港湾を魅力化する上で非常に効果的な切り口。
- 北九州空港とのアクセスについては、航空事業者や北九州市、また、経済団体も関心を持つ可能性があるのではないか。

(漁船の活用・漁業者との連携について)

- 許認可等は整理する必要があるが、実際に漁船に乗れるという体験は実現できると非常に面白い。
- ただし、漁船の場合、潮が凄く早くパワーが足りない可能性がある。潮止まりを狙わないといけない。
- また、港と漁港とは制度上も位置づけの異なるものなので、理解した上で検討を進める必要がある。

(実証について)

- 海上交通に関しては、これまでも旅行会社等において類似の企画が存在してきたが上手く継続できていない。一方で観光政策課における実証を見ても、一定の需要があることは見込めると思われる。
仮説としては、マーケティングや情報発信の手法に課題があったのではないかということ。このため、マーケティング部分の実証に力点を置いて、次年度に実施してみてもどうかと考えている。その端緒として、3月にも実施してみたい。

3. 社会実験について

木村大委員より資料に基づき説明の上、議論

(活用実証)

- 原案はぜひ実施していきたい内容であるが、3月に行くことが適当かどうか。3月の実証は、夜間照明を加えることで緑地の「環境を評価すること」に力点があるため、活用の実証要素が大きすぎると「イベントの評価」になってしまい、本来の実証趣旨がそがれる可能性がある。
- 高価格帯を狙う案であるが、緑地や周辺環境が現在の環境において、また、3月の夜間という気象条件にも照らして、準備が整うかどうか。もう少し簡素なイメージでも良いのではないか。
- 規模は小さくとも、クオリティはしっかりと担保していきたい。場の演出、クオリティの高い飲料提供など。
- 集客イベントである必要はないが、一定数のアンケートは取れるようにしたい。
→大筋の活用イメージは合意。詳細は個別協議。

(回遊性の実証)

- 大噴水の一番の目的は唐戸市場側から海響館を越えてきてもらうということ。また、海響館にも演出を加える。
- 一方で、大噴水の実証自体は、まずは関係機関での確認がメインであり、実施方法も船の航行等との調整が生じ得ることから、ひとまずは独立して考えていくのが現実的。
→少なくとも、視認性の検証を行う。また、クルージングの実証を兼ねて海上からの視認性やクルージングと連動したコンテンツ造成も検討する。

4. 港湾緑地整備にかかる検討

下関市港湾局より資料に基づき説明の上、議論

- 提示された緑地整備のスケジュールでは、時間をかけすぎではないか。ここで時間をかけてしまうと、まちがどんどん変わっていく中で緑地をずっと工事している状態になってしまい、その中でまた次の整備案件が出てくるという状態が重なってってしまうのは、マスタープラン推進の上で良くないのではないか。
- 大噴水については実証が前提にはなるが、緑地の設計と大噴水とで関連が出てくるとすれば設備関係であり、緑地の大きな設計に実証実験の結果が影響するわけではないので、緑地は緑地でしっかり進めていくべき話。
- (優先順位に関してはどうか? →) この広さで区分けして考えていくこと自体が効率的でない。もしあるとすれば、例えばトイレが完全になくなる期間がないように機能面で一部施設のみを調整するなどはあるかもしれないが、基本的にはその程度ではないか。
- プロジェクト推進上もP R上も、R 7年度春の公募開始、R 7年度秋の新規ホテル開業、は強く意識してスケジュールすべき。特に新規ホテル開業はエリア全体のP Rチャンスと認識して今から準備しておくべき。個別事業の

ためでなく、エリア全体が動いていて、これからさらに面白くなることがしっかりと伝わるようにすることがエリア全体のためになる。港湾局だけの問題でなく、プロジェクト推進全体の問題と捉えてスケジューリングすべき案件。

- (一方で、A地区事業者に緑地の積極活用を促すのであれば、A地区事業者の意見を設計に反映する必要性はないか? →) すでにマスタープラン及びその後のデザイン会議・推進会議で、全体配置はこれがベストと考えている状況。今回はランドスケープの専門家がしっかりと作りこんで、それをA地区事業者に使ってもらうのが良いのではないか。
→技術的な実現可能性や議会プロセスも考慮しつつ、緑地整備・水盤・大噴水・A地区公募を含めたスケジューリングについて再検討。

5. あるかぼーと西船溜まりの海洋特性等について

下関市エリアビジョン室より資料に基づき説明

- 岬之町の岸壁の天端高はプラス 3.6mで設計されている。関海峡のハイウォーターレベルはプラス 2.86mで、その潮位差は0.7m。大型船舶が通峡した時には約0.7mの航跡波が来るとも考えられ、その航跡波が船溜まり内に入ってくることも想定される。
- アクティビティハーバーゾーンの護岸は消波構造でないため、船溜まり内とはいえ意外に波があり静穏ではないことから、今後の検討においては、留意することが必要。

6. 火の山の再編整備計画「光の山プロジェクト」のブランドコンセプト、整備イメージ（報告）

下関市都市整備部より資料に基づき説明の上、議論

- R5年4月から展望デッキ（ヒノヤマリング）、アスレチック、キャンプ場、園路の実施設設計に取り組んでいる。R6年度着工、令和7年度中の完成を予定。
- 今後、火の山での事業が段階的に開業していく中で、プロモーションの部分を一体で進めていけるよう、海峡エリアと連携していきたい。

以上